JAあいち三河 自己改革の取り組み ~"無くてはならないJA"を目指して~

現在、多くの組合員の方を対象とした組合員の権利とJAの安定した経営を守るためのアンケートを行っております。ご協力いただいた方、ありがとうございます。

平成31年5月までの農協改革集中推進期間の期限が迫る中、JAあいち三河では「農業者所得の向上」・「農業生産の拡大」・「地域の活性化」の3つの柱を軸に、自己改革に取り組んでいます。皆様から"無くてはならないJA"を目指し、既存の取り組みの強化と共に、新たな取り組みにも尽力して参ります。

今回は「農業者所得の向上」・「農業生産の拡大」・「地域の活性化」の3つの大きな取り組みについてご紹介いたします。

農業者所得の向上

= 直販取引や新たな売り場の確保、産直店舗の利用拡大で 農業者の所得をあげる

地元米を(株)ドミーと直販取引開始 地産地消を目指す

8月にスーパーマーケットチェーン(株)ドミーと協力し、岡崎市と幸田町の36店舗で販売を開始しました。商品化されたのは新米の「コシヒカリ」と「あいちのかおり」。地元企業に安定した数量を出荷でき、地産地消の促進にも繋がる直販取引となりました。



毎月15日はイチゴの日 地元産イチゴ即売会

15日は"イチゴの日"と題し、2月~4月にかけて地元産イチゴの即売会を開始。行政と協力しJR岡崎駅や南公園にて即売会を行いました。 普段は市場出荷がメインですが、即売を行うことで地元産イチゴのPRとなり、販売力強化を目指します。今年も4月まで即売を予定しています。



| 住宅ローン利用者へのダイレクトメール (DM) が1年経過 | お米割引券利用者増加傾向

融資部が発行しているダイレクトメール(DM)の発送が1年経過し、利用者が増えています。住宅ローン利用者に地元産米の割引券付きDMを発送。当初に比べ2倍近くまで増加しています。他にも給油割引券を付けるなどJAの強みでもある総合事業を生かした取り組みの1つです。



この他にも貯金キャンペーンの粗品として農業応援チケットの配布を通じてJAの総合事業を生かしながら農業者所得の向上を目指しています。

2. 農業生産の拡大

イチゴ新規就農者を支援 昨年より活動開始

JAあいち三河「いちご」産地活性化プロジェクトチームが昨年4月より発足。今後、新規就農者が地元農家のもとで研修を行っていき、JAが新規就農者をサポートします。その後も様々な研修を重



ね、2020年から新規就農者となれるよう活動していきます。

ICT農機具実演会を開催 省力化、生産性の効率化を目指す



ICT(情報通信技術)を用いた無人ロボットトラクターやオート田植え機、農薬散布用のドローンなど

の実演会を1月に開催。愛知県内では初の実演会でした。テレビドラマやニュースでも非常に関心度の高い企画で、行政や地元農家、農機具会社担当者など約250人が参加しました。

また、パッキングセンターの利用や農業融資の積極的な活動などを行い、農業生産の拡大に繋がるよう取り組みます。

3 地域の活性化

= 生活基盤の充実や健康活動、教育活動などに取り組み、地域コミュニティーの 維持・強化を目指しながら豊かで暮らしやすい地域社会の実現を目指す

移動店舗車スタート 中山間地などを巡回

10月より移動金融店舗車「ちょリス号」、移動購買店舗車「ほたる号」の巡回を開始しました。「ちょリス号」は通帳による入出金や通帳記帳などの金融業務が可能。「ほたる号」は「幸田憩の農園」で取り扱っている農産物や生鮮品、日用品などを販売しています。2台の稼働によって中山間地に住む組合員や地域住民への暮らしのサポートや総合サービスを行なっております。



食農教育が各地で開催 JAらしさ溢れるイベントを企画

JAには様々な組織があり、食農教育も多く企画されています。女性部は地元小学校との食農教育や地域住民を巻き込んだ食に関するイベントを多く行っています。青年部が行う地域の幼稚園児などとの芋挿し、芋掘りイベントも大盛況です。

他にも地域版コミュニティー誌の参加企画や JAが地域と協力し小学生のカントリー見学、田 植えなど定期的なイベントを通じて地域農業の 応援団の増加を目指します。



JAあいち三河では地域に根ざした支店運営に向け、職員や地域組合員で構成される支店運営委員会を全支店に設置しており、活動を行っています。これからも地域に根ざしたイベントを継続していきます。

JAあいち三河はこれからも"無くてはならないJA"を目指し、 「地域農業の応援団」拡大とともに、地域農業の理解を深める活動に取り組んでいきます。

